

【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931



環白神フォーラム一次の10年、さらにその先へ向けて

11月10日（金）、環白神エコツアーリズム推進協議会（秋田県側の藤里町、八峰町、能代市、青森県側の弘前市、深浦町、鰺ヶ沢町、西目屋村の7市町村により構成され、白神山地に関する情報発信やエコツアー喚起、人材育成などに取り組んでいます）と環境省東北地方環境事務所の主催により、白神山地世界遺産登録30周年を記念した環白神フォーラムが、秋田県八峰町において開催されました。

今回のフォーラムは、遺産登録30周年を受けて、次の10年、さらにその先に向けて、白神山地の価値を守りながら、新たなものも取り入れいく「変わらずに、変わり続ける」をテーマとし、地元の郷土芸能の披露、各界の専門家の講演、そしてトークセッションなどが執り行われました。

八峰町の郷土芸能（石川駒踊り）には、その勇壮な舞に目を楽しませるとともに、白神山地を舞台に受け継がれてきた人々の営みの一端を体感させてもらいました。また、専門家の方たちの講演等からは、白神山地の文化面（人間との関わり）など、私たちの普段の業務からはあまり発想されない気づきをいただきました。

最後に、協議会7市町村の首長によって、バランスの取れた保全と活用、地域の歴史や文化を取り入れたコンテンツ整備等といった共同宣言がなされ、フォーラムは閉幕しました。私たち津軽白神森林生態系保全センターは、この日フォーラムに集った関係者の皆さんと手を携えて、より良い白神山地の保全と活用を目指して、今後も活動を進めていきたいと考えています。（赤澤）



石川駒踊りの様子



協議会の7市町村長の宣言

白神山地世界自然遺産登録30周年を記念した講演会

11月30日（金）鰺ヶ沢町の日本海拠点館において、白神山地と赤石溪流の観光を考える会では、白神山地世界自然遺産登録30周年を記念した講演会を開催し、会員等約

30名が参加して、当センター所長と鱒ヶ沢町教育委員会総括学芸員の2名が講演を行いました。



講演会の様子

当センター所長は、「白神山地と森林生態系保全活動について」と題して、白神山地世界遺産地域の保全や普及啓発活動等の概要と、白神山地の生態系に影響を及ぼす可能性が懸念されているニホンジカなどを、赤外線センサーカメラで撮影する監視活動、地元の子供たちとブナの植樹やノコギリを使った林業体験などを行っている森林環境教育の取組などについてお話ししました。

また、鱒ヶ沢町教育委員会の中田総括学芸員は、「白神山地と赤石溪流の可能性を広げるために」と題して、白神山地を源流とする赤石川流域の地域資源に着目し活動をしてきた、同会のこれまでの歩みを振り返り、これからの可能性や展望とともに、後世に発信を続けていくことが大切であることなどについてお話ししました。

なお、日本海拠点館では12月10日（日）まで、当センターで提供した、くろくまの滝や十二湖の景観、白神山地に生息するカモシカ、ニホンザル、ツキノワグマなどの動物、ブナ、カエデなどの樹木約40点と、鱒ヶ沢中学校2年生が「白神の歴史と文化」をテーマにしたふるさと学習の成果などを展示しました。

講演会終了後は、コロナで中断していた交流会も行われ、多くの方々と白神山地の保全等について語りあい、有意義な時を過ごしました（高木）

白神山地世界自然遺産登録30周年を祝して白神山地をPR

白神山地が世界自然遺産登録に登録されて30周年を迎えた12月11日（月）、鱒ヶ沢駅でJR五能線の観光列車「リゾートしらかみ」に、鱒ヶ沢町役場職員やJR職員などと一緒に、乗客らに手を振って節目をアピールしました。

鱒ヶ沢町の人気者だった秋田犬「わさお」の養女で駅観光主任を委嘱されている「ちょめ」と一緒に乗客を迎えると、乗客は手を振り返したり写真を撮って喜んでいました。

この取り組みは、白神山地に由来して名付けられたリゾートしらかみに手を振り乗客を歓迎することで、白神に関心を寄せて貰い、再度来訪してもらおうという狙いで行ったもので、当センターも急遽参加することとなり、取り組みをまとめたリーフレットの配布と日本酒（特別純米酒安東水軍）のボードを振って白神山地をPRしました。（高木）



白神山地をPR